

2018 年度 中等教育・日本語教師ワークショップ報告

矢澤理子（日本台湾交流協会台北事務所）

石原貴子（日本台湾交流協会台北事務所）

山下直子（日本台湾交流協会高雄事務所）

1. 実施日時・場所：

2018 年 8 月 18 日(土) 10：30～16：30 【台北】 交流協会台北事務所 B1 文化ホール

2018 年 8 月 21 日(火) 10：30～16：30 【高雄】 実践大学高雄校区高雄市教学中心

2. テーマ：「授業に使えるアイデア・素材－教師も学習者も楽しめる授業のために－」

3. 概要

目 的：教師も学習者も楽しいと感じられる授業を目指し、授業に取り入れやすい実践的な内容を学び、新年度の授業に生かしてもらうこととする。また、教師の交流の場となることも期待する。

想定クラス：中等教育、主に高校の第 2 外国語クラス

参加者数：延べ 36 名

3 名の講師が、以下の通りワークショップを行いました。（両会場共通）

午前：アイスブレイクアクティビティ

現場の問題と解決のヒント

午後：矢澤理子講師 「レアリア（実物）を使ってみよう」

山下直子講師 「課題遂行(Can-do)のための授業『まるごと』を参考に」

石原貴子講師 「50 音の覚え方のアイデア」

質疑応答

午前中は、参加者が担当しているクラスでの様々な問題点をあげてもらい、全員で共有、その解決策を考えてみました。困っているのは自分だけじゃない、と気付いたり、解決のヒントがいろいろ出たり、時間が足りないぐらいでした。

午後は台湾で手に入る物や当所文化啓発品を使った授業のアイデアの紹介とそれらをどう使ったらいいか考えてみるワークショップ、『まるごと』を使った韓国語講座（新しい言語の学習体験）、台湾で出版されているひらがな・カタカナを覚えるアイデアが詰まった教科書の紹介と文字を覚えるゲーム、等を参加者で体験しました。新学期に授業で生かせる点を意識した内容です。

5. 参加者の反応

和気藹々とした雰囲気、充実した時間になりました。終了後のアンケートより、参加者の声（一部）を紹介します。

・台湾全体の高校での日本語授業の様子について少し分かるようになりました。今まで気付いていなかったことも発見しました。第二外国語教育の日本語授業の現場では、たくさん問題が存在

していると実感しています。

- ・授業の最初に自己紹介を言わせるのが当たり前だと思っていたが、実はいろいろなやり方があって、ゲームで「する」ことを通して話すということを教えていただき、目から鱗だった。
- ・「あいうえお」の導入はいろいろなアイデアをいただきました。
- ・『まるごと』のセッション、自分が外国語を習う立場になるという経験は面白かった。久しぶりに言葉の勉強のスリルを初心者の気持ちを味わえてよかったと思う。まるまる1コマ分、あのような授業を受ける経験をしてみたい。
- ・ちょっとしたことでゲームやクイズになるというのはおもしろい。
- ・好奇心をかき立てる方法をいくつか知ることができました。実際にやってみようと思います。

6. まとめ

日頃、一人で授業の計画をたてクラスを運営している教師にとって、教師同士話せる機会は貴重だと思います。また、大学で教えている先生からは、学生たちの問題について、大学入学以前からの問題が続いているのだということがわかったという声がありました。

今後も、日本語教師という共通事項で集った人たちが何かを得る場を提供できればと思っています。そしてそれが積み重なって大きなものとなりますことを願っています。

日本語を楽しく学んでほしい。これは多くの先生方の願いだと思います。そして日本語を楽しく教えたい。楽しいクラス作りをしたい。これも多くの先生方の願いだと思います。今後も「楽しい」授業を先生方と考えていければと思います。

以上